

2014年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2014年12月7日
発行人 日本基督教団 関東教区
埼玉地区委員会
委員長 土橋 誠
飯能市柳町 23-8
http://www.5b.biglobe.ne.jp/~saitama/
印刷所 (株)シャローム印刷

中学生・KKS・青年キャンプ報告

所沢みくに教会 最上 久美子

八月十二日(火)～十四日(木)、
軽井沢の立教学院みすず山荘で、中
学生・KKS・キャンプが行われま
した。青年部とドッキングして行う
キャンプは今年で三回目です。青年
部と共に行うことで、大変良い効果
が双方に出ています。

講師は深川教会牧師の長尾邦弘先
生と長尾愛子さんでした。ご夫妻は
二年前まで埼玉地区で活躍され、子
どもや青年たちにも人気抜群です。
参加者は六十人になりました。

テーマは「教会こそうだい！ 神の
もとに帰ろう」で、放蕩息子の譬
え(ルカ十五章)を学び、中・高・青
年の三つのグループでよく話し合
い、劇にして発表しました。

長尾牧師の分かりやすいお話と、
愛子さんの歌や紙芝居などで、また
たく間に放蕩息子の世界に引き込ま
れていきました。各グループが三日
にわたって、共に楽しくまた真剣に
話し合い、一人ひとりが自分の中
にある弟、もしくは兄の姿を自覚した
ようです。

その思いを、二日目の午後、三回目
のワークショップの後、各グルー
プで劇にして発表しました。



中学生、高校生、青年それぞれに、
熱のこもった素晴らしい劇でした。
何の小道具や衣装もないまま、セリ
フと演技だけで、自分たちの伝えたい
放蕩息子のメッセージを演じきり
ました。また、その輪から外れている
人は一人もいませんでした。終わっ
た時のキャンパーたちの満足気な表
情が印象的でした。特に、青年はさ
すが、現代版放蕩息子を作り上げ、こ
のお話がまさに現代の私たちの身近
にある問題であることを教えてくれ
ました。ほとんどアドリブなのに、一
人ひとりの演技力はたいしたもの

で、ここだけではもったいなく、参加
されなかった方々にもお見せしたい
と思う程でした。

二日目に、中学生・高校生はお弁
当を持って近くの公園に出かけまし
た。予想していたより人出が多く、
フットサルのコートは使えませんが
したが、公園のあちこちで普段の仲
間ではない人たちが夢中で走り回っ
ている姿を見ました。

また青年は、自転車を借りて軽井
沢の街を散策しました。軽井沢教会
をお訪ねすると歓迎を受け、良い交
わりの時が持てたようです。



交流タイムやフリータイムでもよ
く遊びました。みすず山荘の広い庭
でサッカーに燃え、チャペルのピア
ノの周りで、歌ったり演奏したり楽
しそうでした。

二〇一四
年十月十日、
今年のノー
ベル平和賞



授与者二名決定のニュースを
聞いた。女性や子どもの権利を
訴えてきたパキスタンのマラ
ラ・ユスフザイさんとインド
のカイラシシュ・サトヤルティ
さんである。

特にマララさんは、一昨年パ
キスタンで女性教育の権利、個
人の権利を訴え多くの人々に感
銘を与え、パキスタン政府から
国民平和賞を授与されたが、そ
の後、イスラム武装勢力タリバ
ンに襲撃された少女である。

彼女は、昨年七月、国連で「
私は過激派を憎んではない。い
過激派の子どもたちを含むすべ
ての子どもに教育の機会を与え
てほしいと伝えるためにやって
来た」一本のペンと一冊の本
で世界を変えることができる。
教育こそが平和への唯一の道で
あり答である」との演説要旨
に、心が揺さぶられた。

今回の平和賞スピーチにお
いて、「自分には二つの選択肢
がある。『一つは、声を上げず
に殺されるか、もう一つは、声
を上げて殺されるか』だ」と
語った。忍耐と勇気ある姿に、
共に真の平和を求め、祈り続け
る使命を感じた。

「舌を悪から 唇を偽りの言
葉から遠ざけ、悪を避け、善を
行い平和を求め、追い求め
よ」(詩篇三十四・十四・十五) (茨木)

キャンプファイヤーでは、青年の指導で「放蕩息子ゲーム」などを楽しみ、後半の証の時には、中学生・高校生それぞれに、普段心の内にありながら言えないでいる自分の課題や苦しい思いを語ってくれました。皆、共感するところが多いようで、すすり泣きの声も聞こえました。ここでなら本当の気持ち可言えるという思いを中学生・高校生が持つてくれていることに、スタッフも感動し、また感謝しています。

青年たちは、キャンプファイヤーでは中学生・高校生に語る機会を譲ったので、翌三日目の分かち合いの時、一人ひとりが自分の現状を伝え、悩み迷っていること、キャンプに来るまでの経過、これからの決意などを本当によく話し合いました。遠回りをしたけれど、今ここに帰ってきてよかったと涙ながらに語る様子に、その彼や彼女なりの苦労や、そこから立ち上がろうとする姿を見て、こちらも涙が滲んできました。このキャンプで、信頼できる友達作りができていること、そして皆が一年一年確実に成長していることを感じました。まさに今回のテーマ「神のもとに帰ろう！」が、生きていました。

初めての参加者が多かったのですが、このキャンプのリーダーたちは自然に、新しい人を受け入れ、交わりに引き込むことができるのです。初めて参加した人の一日目の不安げな顔は、三日目には実に楽しくそちらに変わっていました。これも、このキャンプで神様が毎年見せてくださる、嬉しいことの一つです。



また、中学あるいは高校時代から参加している青年たちは、よく手伝ってくれます。スタッフが大変だなと思う時にはもう、自然に何人もが来てやってくれるのです。教育委員のメンバーは多くありませんから、本当に助かります。みんなで作

上げているキャンプだと言えます。

十月四日に、中学生・高校生・青年の秋のフェスタが行われます。そこでキャンプの文集が作られ、各教会に送られます。どんな感想を書いてくれたか楽しみですし、各教会の皆様には是非お読みいただきたいと思ひます。

私たち埼玉地区の教会の中学生・高校生・青年が、こんなに成長していることを知って、共に喜んでいただきたいのです。そして来年もたくさんの方々たちをこのキャンプに送り出してください。きつと成長して教会に帰って来ることと思ひます。

(教育委員会)



新任教師紹介

埼玉に遣わされて

東京聖書学校吉川教会
佐々木羊子



本年四月より東京聖書学校吉川教会の副牧師として就任しました佐々木羊子と申します。

私は二〇一一年に東京聖書学校を卒業し、同年四月に大田区の東調布教会の伝道師に就任しました。それから、三年間の働きを経て、この教会に赴任となりました。教会は神学校と一体型の建物になっています。

そのため、私たちの教会は神学校を支え、伝道者を育て、また伝道者を生み出していくことも使命であると考えています。主任牧師であり、舎監でもある深谷先生ご夫妻を支えつつ佐々木千沙子伝道師と共に協力しながら埼玉の地に福音を宣べ伝えていきたいと願っています。また、このことのために、埼玉地区諸教会の皆様と共に、祈りをあわせることができれば幸いと思ひます。

東京聖書学校吉川教会
佐々木千沙子



四月から赴任させて頂き、早いもので半年経ちました。この間に地区の先生方とお交わりを通して豊かなお恵みに預かりましたことを深く感謝申し上げます。伝道に励まれる先生方、教会員の皆様を心から尊敬申し上げ、伝道師として主の道を伝える使命のため、お祈りとご指導のほど宜しくお願い致します。

東京聖書学校吉川教会は神学校と共に歩んでいる教会です。吉川に神学校が移転して教会創立は二十年ですが、受洗して献身する方や転入会して献身する方が、これまでたくさん輩出されていることを知り驚いています。

かつてアメリカにいたときにこのような教会があると聞いて感動したことを思い出し、現在ここで訓練をさせて頂けることを感謝致しております。これからまた、献身する方が起こされ、福音が全世界に伝わることを心から願ひご挨拶とさせて頂きます。

役員・伝道委員

研修会報告

越谷教会 豊川 昭夫

七月十三日(日)、午後三時三十分より埼玉新生教会にて、伝道委員会主催の役員・伝道委員研修会を開催しました。

講演は「現在の伝道(パートⅡ)―心病む時代の中で―」と題して、講師は片柳福音自由教会牧師であり、NPO法人片柳コイノニア理事長でもある滝田新二牧師で、参加者は六十二名・十七教会でした。



講師の教会は、集ってくる方の二割以上が障がい者なので、障がい者と共に生きる教会をめざし、「地域に開かれた、誰でも安心できる教会」というビジョンで、地域社会に根差した教会形成を実践しています。

この為、同教会では二〇〇五年にNPO法人片柳コイノニアを設立し、グループホームの働きを始めました。今回は、講師の他にこのグループホームを実際に運営している委員長と世話人の貴重な証も聴くことが出来ました。



講演の中で「教会に一人の統合失調症の方がいれば牧師はノイローゼになってしまう。しかし二十人いれば牧師はノイローゼにならない。何故なら、彼らはお互いにケアするからだ。また一人の障がい者が救われると家族全員が救われる」という話が特に印象に残っています。更に、障がい者を受け入れることによって、今度は教員が優しくなり、彼らと共に教会も成長していったことが語られました。(伝道委員)

平和を求め

八・一五集会

川口教会 本間 一秀

八月十五日、埼玉和光教会で「八・一五集会」が行われ、憲法学者の稲止樹氏(国際基督教大学教授)による講演「『安倍政権の戦争する国づくりに抗して』―憲法九条で真の平和を実現しよう―」から聞きま

した。稲氏は、政治の動きを振り返り、「特定秘密保護法制定から集団的自衛権行使容認の閣議決定の動きは軍事力の自制を解き放とうとしている。」と指摘しました。そしてこれは「アメリカの要請にこたえるだけでなく、政府が自衛隊を政治の道具として活用できるようにするものである。」と指摘し、「その将来像は、アメリカの従属国家化、日本の軍事大国化を追求させるもの」と語りました。「私達は今後、新しい法律の制定の動きを批判的に検討し、阻止する運動をし、改憲の動きに待ったをかけた」と力を込めて語りました。キリスト者として「平和を実現」すべく励まされた集会でした。出席八十七名。

(社会委員会)

教会音楽講習会報告

大宮教会 勝野 昌子

今年度二回目の講習会が、十月二十五日(土)に埼玉新生教会を会場として開かれました。九教会十八名の参加でした。



プロテスタント礼拝の特色の一つはその多様性にあるということです。礼拝の形や内容が、社会や文化の中からは生まれ様々に変化してきましたが、御言葉の礼拝、聖餐の礼拝は共通して守られているという事です。日本では明治初期からあまり変化してきていないということです。

後半のビデオでは教派別の礼拝の様子を見せていただきました。

音楽が、礼拝の中で要所所に使われ、初めから終わりまで進行に関わるケース。聖餐式で集中的に用いられる等、音楽の用いられ方が教派によって違うことを知ることができました。そのように違いはあっても教会の伝統、信仰的内容を表わす神学的な意味を踏まえて、音楽が、礼拝の流れの中で果たす役割が重要であることの認識を新たに致しました。

礼拝音楽に関わる者として、礼拝の中で音楽の在り方についてリフレッシュされ、その重要さを再認識させていただいた講習会でした。講師の越川先生に感謝申し上げます。(教会音楽委員会)

二十回アーモンドの会

大宮教会 石川 幸男

九月二十三日(火)埼玉和光教会に於きまして、アーモンドの会(障がいを負う人々と共に生きる教会を目指す懇談会)が行われました。

今年のテーマは「命の喜び」とし、出生前診断について考える機会と致しました。

講師として、本庄教会の教会員で、全国キリスト障害者団体協議会会長の洪沢久氏をお招きし、『「弱さ」を持って神様と旅する喜び』と題する講演を伺いました。



洪沢氏は、現在七十七歳、二歳の時にポリオに罹患し、手足の自由を失いましたが、周囲に生かされ、引き受けられて、人生の旅をスタートしたと話されました。また聖書から、主イエスは十字架の上で弱さに留まったことにより、救いが来た

ことを覚えなければならぬ。出生前診断で弱く見えるものとして判断された「いのち」に

向き合うための信仰的判断は、ここから神様の御声として聞きとらなければならぬと力説されました。「一人ひとりの幸せはそれぞれの人が決めること、最初からストーリーを決めないでほしい」という洪沢氏の言葉に心を打たれました。

午後は、北本教会牧師の石川榮一先生による、「神さまの知恵」と題する聖書の学びが行われました。「ヨブの妻」及び「バト・シエバ」の物語から、物事にはすべて両面性(二面性ではなく)があること、そして知らされず生まれてくることの幸いを、障がいをもって生まれたお嬢さんを育てた経験からお話しされ、会場は深い感動に包まれました。



今年、地区・教会の教会より二十二教会、他より二教会の参加があり、六十四名で行われました。

(障教懇談委員会)

災害対応講演会報告

和戸教会 三羽 善次

地区災害対応委員会では、これまで東日本大震災関連で講演会を二回持ちました。

今回は、十月四日(土)、埼玉新生教会を会場に、福島原発による放射能除染を教会と付属幼稚園の課題として取り組んでおられる、磐城教会の上竹裕子牧師を講師にお迎えし、「いわきー原発から四十キロの町の今」と題してお話ししていただきました。



いわき地区は、あの三・一一の直後、教会員の八割が一時避難をされた所ですが、それ以後、放射能の除染との絶え間ない格闘が始まりました。まず、幼稚園の園庭の土をす

べて入れ替え、樹木の伐採、抜根の作業をしたそうです。この作業を県や市に要請しても後回しにされるので、教会と幼稚園で費用を負担して除染作業を優先したそうです。あとから、東北地区に寄せられた震災献金より補助を受けることが出来、大変感謝したということです。

放射能という見えない恐怖の精神的な負担は思った以上に重く、教会員同士でも互いの苦しみを受け止めることのできない程で、お互いが言語喪失状態になり、その中で礼拝の説教する事の苦汁を語られました。また、災害時には、いつも「何々のために祈ります、捧げます」と言われるのですが、むしろ「何々と共に祈ります、捧げます」と言って下さることが良いと語られました。これは、被災した人たちと共に思いをひとつにし、苦しみを共にするという視点が少しずれると「ために」という事になるからです。

災害の被害を受けた後にも、また次の災害をこうむる事があることにも目をそらしてはなりません、と言われます。これを「災間」に生きると呼ばれました。

繰り返し押し寄せてくる災害の間、「災間」の中で、わたしたちはどう生きて行くか。それを、わたしたちが問われていると言われます。わたしたちの信仰も問われています。それは「終末的な希望に生きている事に、心を留めつつ生きる事です」と最後に語られました。



なお講演会終了後、自由献金を募り、全額を磐城教会と付属幼稚園に捧げました。
*参加者 二十七名

(災害対応委員会)



献堂のよろこび

「新会堂」献堂式」報告

武蔵豊岡教会 吉田 純

二〇一四年九月二十八日(日)、この日は朝から晴天に恵まれ、武蔵豊岡教会の記念すべき「献堂式」にふさわしい天気となりました。多くの兄弟姉妹が駆けつけ、お祝いの言葉をかけて下さいました。



定刻の二時の半、水野均先生(早稲田教会オルガニスト)の演奏に

よって新しいパックスアールンオルガンの荘厳な音色が響きわたりました。

「それは、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。」(ルカ六章四十八節)

教団総会議長石橋秀雄先生が「岩を土台とす」と題して説教をして下さいました。「この

教会は、岩の上には建っていないせんよね？」と、石橋先生は司式の栗原牧師に笑顔で同意を求められました。

「地面を深く掘り下げなくても『地盤』そのものがしっかりとおりますから。」地にしっかりと足をつけて伝道に励んでほしいという、新生武蔵豊岡教会に対するメッセージと受け止めました。

先生の祈禱に続いて、礼拝堂の二階ギャラリーから聖歌隊による「地の上にまことの」(W・Mヴォーリズ作曲)の賛美がなされ、水野先生のオルガン奉献もあり、それは素晴らしく感動的でした。教団・教区の先生方から祝辞をいただき、最後は石橋先生の祝辞をもって献堂式を終えました。



続いて「写真スライドショー」では、旧礼拝堂献堂当時の貴重な写真に驚きの声が上がりました。集合写真撮影のあと、集会室に移動して祝会となりました。

田中龍夫入間市長をはじめ、

教会建築に尽力された関係各社代表の方にご挨拶をいただき、楽しい会食・懇談の時間を過ごしました。会員を含めて二七五名の出席をいただき、新礼拝堂完成の喜びを分かち合うことが出来ました。多くの方々支えと奉仕、祈りに感謝します。主がみなさんをかえりみて下さいますように。

「献堂式に寄せて」 「今まで、そしてこれから」

浦和東教会 永井三男

献堂式を迎えることができましたことを、主イエス・キリストの名によって感謝申し上げます。



浦和東教会は、一九六〇年に初代・大沢務牧師の開拓伝道によって設立されました。私は、日本聖書神学校時代に大沢務教授に教えを受けました。その私が、六代目の牧師として、

今、浦和東教会の牧師職に就かせていただいていることは、不思議な主の導きと思えます。

浦和東教会の歴史はまた、教会建築の歴史であつたといつてもよいかと思ひます。浦和東教会の五〇周年



の歩み(記念誌)の中に、会堂献金の歩み、という記事があります。

(以下抜粋)

- ①第一次会堂献金・一九六一年度開始。②第二次会堂献金・一九七五年度開始。③第三次会堂献金・一九八二年度開始。④教会拡張献金・一九八九年開始。⑤教会拡張基金献金・一九九四年開始。⑤は、現在も継続中。

これだけでも、この教会に主から託された課題が、教会建築にあつたことをご理解いただけると思ひます。

予想もしなかつたほどの地盤の弱さ、それに関連して、また経済状況の変化による建築費用の高騰、困難はいくつもありましたが、主イエス・キリス

トが私たちを導いてくださいました。

「信仰とは、望んでいること」がらを確信し、見えない事実を確認することです。」(ヘブライ人への手紙十一章一節)

この成就を体験した私たちは、主にあつて、これからの歩みを進めてまいります。

ご案内

【二〇一五年新年合同礼拝】

一月十二日(月・祝)十時三十分

十一区 会場Ⅱ上尾合同教会

*説教 伊藤瑞男牧師

(大泉ホテル)

*子ども説教

棚橋千恵美牧師(越谷)

*聖餐式司式

秋山 徹牧師(上尾合同)

十二区 会場Ⅱ武蔵豊岡教会

*説教 最上光宏牧師

(所沢みくに)

*子ども説教

指方周平牧師(東所沢)

*聖餐式司式

野村忠規牧師(東松山)

十三区 会場Ⅱ深谷教会

*説教 石川榮一牧師(北本)

*子ども説教

高橋悦子牧師(桶川)

*聖餐式司式 三羽善次牧師

(和戸)

追悼

小田原紀雄先生

羽生伝道所 星山 京子



羽生伝道所は、西東京教区の東京復活教会と合併して

羽生の森教会となりました(法人合併してから正式に名称変更します)。子ども、老人、世間からつまはじきにされた人、孤独な人、いろんな人と一緒に過ごせるスペースを作ろうと考

しめられて、たくさん楽しい話を聞いて、また教会から旅立っていきます。小田原先生は生業として、学校をドロップアウトした子どもたちに古文を教

え、数年前に教会に隣接する土地一五〇〇坪を購入しました。少ない教会メンバーのほとんどが、そのカテゴリーに属するような伝道所としては、多額の借金を抱える大きな決断でした。東京の寄せ場、山谷に日本堤伝道所を建て、寄せ場労働者の拠点とした小田原先生の、次の決断でした。

福島聖二先生を偲んで

北本教会牧師 石川 榮一



故福島聖二牧師の前夜式が、十月十三日(月)、葬儀が十月十四日(火)、杉戸町葬祭場で行われ、その司式を務めさせて

いただいた。超特大台風の接近であいにくの気象条件であったが、三つの幼稚園園児・卒園児をはじめ白岡町の関係者など、多数の方々が出席された。特に前夜式は、子どもたちを含めて六一四人の参列者があった。子どもたちから慕われ、市議会関係の人たちから愛されてきた福島先生の人柄が偲ばれる。

福島先生は、一九八五年に白岡伝道所を開設、菁莪幼稚園、本庄幼稚園、白岡天使幼稚園を設立、さらに白岡町町議会議員を四期にわたって任職され、二〇一一年に瑞宝双光章を受章されて地域社会に貢献された。お連れ合いの福島英子牧師の手記の中に、福島牧師の園児たちに寄せた愛を偲ばせるエピソードがある。

《幼稚園の初めの頃は、狭い部屋の中に重い椅子が使われていた。子どもたちの「広いスペースが欲しい」という願いに応えようと福島牧師は、椅子も机も重なるようにしよう」と、近くの鉄工所に依頼して板を取り付けた。後日、教材関係の業者が「これはいい」と、その一つを見本として持ち帰り、今日わたしたちが知る「重ね椅子」が誕生したのである。》このエピソードをもとに、翌日の葬儀で「信仰・希望・愛」をテーマに説教をさせていた。なんとかして園児に希望を持たせようとする福島牧師の信仰と愛をそのエピソードに感じたからであった。

最後の遺族代表のあいさつで、英子牧師は、「信仰・希望・愛」は、夫の最も愛した聖句です、と証しされた。事前にも不思議です、と結ばれたが、本当に不思議な一致であった。司式の依頼を受けた時、自分よりもっと、ふさわしい方があ

第二十八回 伝道と賛美の集い

大宮教会 西谷 祐司

十月二十五日(土)午後二時から、武蔵豊岡教会において埼玉地区伝道委員会主催で標記のイベントが開かれました。

今回は、同教会の教会建築記念コンサートと題して「響く弦の調べはあなたを祝う」(詩編四十五編九節)のテーマで、バイオリン奏者の杉山優子姉とピアノ伴奏の木下裕美姉の演奏と同教会の栗原清牧師のショートメッセージをいただきました。

同教会は、一八八九年七月二日、豊岡美以教会として創立し、メソジスト信仰を継承した伝統ある教会です。W・M・ヴォーリス氏が設計した礼拝堂は、樺(けやき)材を多用した堅牢な建造物で、「人間市の景観五十選」にも選ばれているそうです。一九八九年に発表された国道一六号線の拡幅計画のため、教会は大きな影響を受けました。献堂九十年を迎える昨年春から、老朽個所を大幅に修繕し耐震補強をして、国道側に正面玄関を合わせるために向きを変えて移築すること

特集

社会福祉法人 神愛ホームについて

毛呂教会 渋谷 弘祐

常より神愛ホームの働きを覚えてお祈り、ご支援を下さって感謝いたします。

この度原稿を書くようにとの依頼を受けたので、神愛ホームと協議の上で執筆させて頂くことになりました。

沿革によると、神愛ホームの
前史は、一九五〇年です。



毛呂教会の信徒であった市川茂平氏が、教会の付属施設として児童福祉法に基づき保育所を設立。翌一九五一年に保育所を児童養護施設に変更し「神愛ホーム」という名称とされました。更に、その翌年の一九

五二年に毛呂教会が宗教法人となると、神愛ホームは児童養護施設として独立しました。時を経て二〇〇三年に社会福祉法人となっています。



神愛ホームの基本理念は、「児童福祉法四十一条による児童養護施設として、キリスト教精神に基づき、創設者市川茂平の思いを掲げた『愛と感謝』を法人理念として、全てのの人に、全ての事に、愛と感謝の気持ちを持って、児童を養護し自立支援を行います」とあります。『愛と感謝』は更に十に定義されます。

- 一、自分を愛し他者を愛する。
- 二、相手を思いやり、相手を認め尊重し受け入れる。(相手の立場になって考えることである)
- 三、見返りを期待するのではなく、無償の愛の精神を大切に

する。(与える愛を大切にすること。笑顔でいることも与える愛である)

四、命ある全てのものを愛する。(大切にすること)

五、人は皆、神の子であり、平等である。差別をせず愛を持って接することが大切である。

六、人は一人では生きていけない。だからこそ人に支えられて生きていることを忘れずに、謙虚な姿勢と目上の人を敬う心を大切にして感謝の気持ちを持つ。

七、この世の全てのものが、神である宇宙の創造主によって創られている。だからこそ私達は、生かされていることを忘れずに、愛と感謝の気持ちを大切に生きることである。

八、自然の偉大さを常に意識し感謝する。
九、普段の生活を当たり前と思わずに感謝する。
十、一日の始まりを当たり前と思わずに感謝する。

まず、ホームから日曜日の礼拝に子どもたちが来ています。また地区の中学生・KKS青年キャンプ等行事にも参加しています。それだけに留まらず、教会の多くの方がホームの後援者の会員として支えています。

教会が支えるだけでなく、この度の原稿依頼のようにホームが教会の働きを覚えて支えてもいます。互いに愛の実践者・奉仕者として共存・協力関係にあると言えるのではないのでしょうか。とてもよい関係であると感しています。



地区の皆様におかれましては神愛ホームのバザー等にご協力ご支援頂き心からお礼を申し上げます。今後とも埼玉地区につながる働きの一つに加えてお助けください。
原稿を執筆させて頂いた恵みに感謝して。

(六ページより)
を神の御心と受け止め、教会建築を行いました。そして、創立百二十五周年に主の御心により新会堂が完成し、二〇一四年七月二十日から新会堂で主日礼拝を開始しました



奏者の杉山姉は証しもされました。小さい時から両親に連れられて教会に行っていたが、中学生の時に自分の存在意義が分からなくなった時に、聖書の御言葉から救われた体験を証されました。

栗原清牧師のショートメッセージは、弦が端と端を結ばなければ音色が出ないように、私たちも神様につながることによって、この世にあって豊かな人生の実を結ぶことが出来るという話をされました。
恵みの多い集いとなり感謝です。参加者は、二十四教会、二六人。(伝道委員)

地区委員会報告

●二〇一四年度第三回委員会

日時 七月十五日(火)
出席 十一名

【主な報告】

◇委員長報告

*教会・教師の情報

・武蔵豊岡教会の新会堂が完成し、九月二十八日に献堂式を行う予定

・浦和東教会の新会堂が完成し十月二十六日に献堂式を行う予定。

・就任 遠藤公義(久美愛)

・辞任 中村眞(久美愛の代務者)

・隠退 櫻井義也(北川辺)

*その他報告

・教区総会設営(五月二十六〜二十八日)の報告

・韓国基督教長老会京畿中部老会訪問受入(六月九日〜十日)の報告

・教区常置委員会(六月十七日)の報告がなされた。

◇会計報告…五月十六日から七月十五日までの一般会計の報告がなされた。

◇各委員会・各部報告

【主な協議事項】

◇地区総会付託議案に関する件

・地区会計監査選任の件…

藍田修牧師(鳩山伝道所)と

石川幸男兄(大宮教会)を選任した。

・総会議事録確認に関する件…前年度地区書記の都築英夫牧師より提出された「二〇一四年度地区総会議事録」を一部訂正の上、承認した。

・教会全体修養会の件

①委員構成…信徒委員候補を検討。八名で委員会を構成することとした。

②会場 軽井沢南ヶ丘倶楽部。

③講師 窪寺俊之先生(聖学院 大学人間福祉学部こども心理学科長、聖学院大学院教授)を候補とした。

・伝道所と集会所との懇談会の内容に関しての件

十一月十一日(火)に開催予定の「地区内伝道所と集会所と地区委員会の懇談会」に関して、現状報告と共に地区への期待を聞き、地区としてどのような協力が出来るかを話し合う。

・埼玉同宗連・埼玉宗教連あり費納入の件

担当の飯野敏明牧師(本庄教会)より埼玉同宗連二〇一四年度分担当二七六〇〇円と埼玉宗教連二〇一四年度負担金二万円の支払い申請があり、これを承認。

・教区教会協力費申請の件

加須教会より特別伝道集費用の為、教区教会協力費二七五〇〇円の申請があり承認。

・教誨師活動への補助金の件

二〇一五年に教誨師会の研修会が埼玉で行われ埼玉県

の教誨師は一人十万円を負担する。この為、新年合同礼拝(二〇一五年は最寄り区

毎)の際に自由献金のアピールをし、不足分については一般会計より補助をする。

閉会祈祷 野村忠規

●二〇一四年度第四回委員会

日時 九月十二日(金)

出席 十名

◇委員長報告

*教会・教師の情報

・八月二十三日 小田原紀雄教師(羽生伝道所)が逝去。

・山野裕子教師より久喜復活伝道所の設立申請が関東教区へ提出された。

・教区常置委員会(九月九日)の報告がなされた。

◇会計報告 七月十六日から九月十二日までの一般会計の報告がなされた。

◇各委員会・各部などの報告がなされた。

【主な協議事項】

・教会全体修養会の件

①委員構成…信徒委員として吉田武人(鴻巣・三区)、蔭山千里(埼玉新生・一区)の各委員が就任した。尚二区の教師会で二区の信徒委員を推薦してもらおう事を決定。

②会場は軽井沢南ヶ丘倶楽部。日程は八月三日(月)〜五日(水)に決定。

③講師は、窪寺俊之先生(聖学院 大学人間福祉学部こども心理学科長、聖学院大学院教授)の承諾を得た。

・伝道所・集会所との懇談会の件

①日時と会場 十一月十一日(火)、午後三時〜五時。埼玉新生教会

②内容 現状報告と地区への期待を聞いて話し合いの時をもつ

③案内 伝道所(白岡、埼玉中国語礼拝、鳩山、羽生、桶川、国際愛)と集会所(久喜復活)に十月中旬までに出す。尚、今回は教区四役へも案内を出す。

・その他…教団の「隠退教師を支える運動」の埼玉地区推進委員として埼玉和光教会の斗内寿子姉を承認。

閉会祈祷 土橋 誠

編集後記

秋の深まりと同時に、初冬の朝の空気に触れるにつけて、酷暑、猛暑に汗したあの夏の日々が、すでに「喉元過ぎれば…」のような思いがしています。埼玉地区の各委員会、部会は、猛暑、残暑の中にあつて様々な企画を実行し、その様子を報告の形で寄稿していただきました。そして、二つの教会(武蔵豊岡・浦和東)が、その地域に装いを新たにし、献堂への喜びと感謝をささげた様子、また、「特集」は、毛呂教会と関わりの深い「神愛ホーム」の紹介をしていただきました。また、八月と十月にお二人の教師が、召されました。追悼文を通して埼玉地区において、それぞれの召命感のもとで労された先生方のお働きを知ることが出来ました。

皆さまへの原稿依頼に対してご快諾くださり、この二号を無事にお届けできますこと、委員一同感謝しています。最後に、この地区通信委員会の三井田忠昭委員長が、この夏の猛暑の中、体調を崩され、現在、リハビリを中心に加療中です。主の慰めと癒しのみ手の中においていただけますよう、ご加祷ください。

(茨木)